

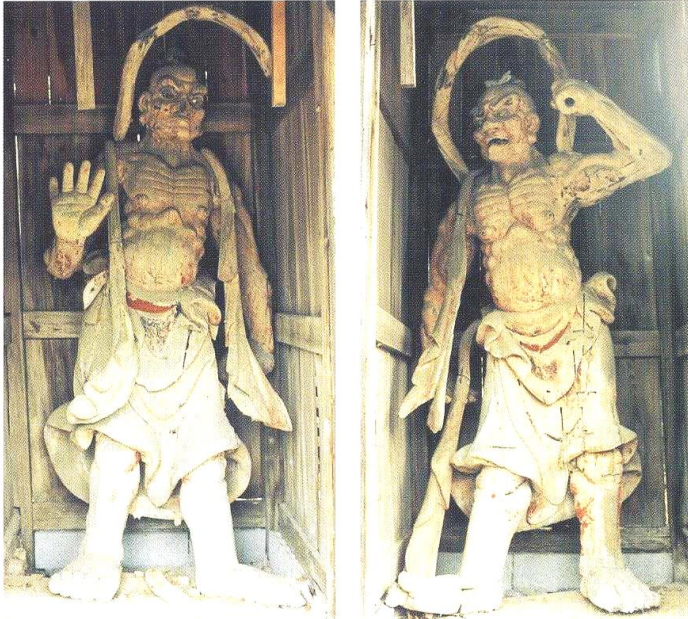
●シリーズ●わが町の文化財へ71

世羅町重要文化財 木造仁王像立像

昭和44年11月20日指定

下津屋十二坊は中世大田庄の地頭（庄園を管理する鎌倉幕府方の役人）であった、橘氏の氏寺関係の寺院として栄え、橘氏追放後は三善氏関係の寺として栄えたものと伝えられている場所です。仁王像は寄木造りで出雲神社の参道入り口に立っています。明徳3年（一三九二）の「山名藤公為御意伊尾村山大境ふみ申事」（伊尾・門藤家文書）に付属する絵図に「二王門」とあり、初代仁王像の造像時が推定されています。

また、仁王門は文化15年（一八一八）の建物で、仁王像は像高2.55mあり、木造寄木造、玉ぎよく眼彩色がんさいしきのものです。造像の時期は江戸時代中期頃と推定されています。



あぎょう うんぎょう
向かって右側が阿形像、左側が吽形像

●シリーズ●わが町の文化財へ72

世羅町天然記念物 龍ノ口奇岩群

平成9年5月22日指定

県道中安田三和線の世羅町上津田から三次市三和町への町境付近を「龍（辰）ノ口」と呼ばれています。県道からすぐ頭上に龍が大きく天に向かって口を開けたような巨岩群が重畳ちようじようと横たわっているのが見えます。この一帯はかつて奥谷川の溪流沿いの往還（道）の難所で、また、多くの伝説がある地でもあります。小字地名の「鐘紡山」と「龍（辰）ノ口」の中間点に所在しています。

『藝藩通志』や『世羅郡誌』にも「名勝」の部に「龍ノ口」があり、『奇岩龍口に似たり依って名となす。付近に古塚あり。』とあり、付近には屏風のように並んだ岩など自然が作ったとは思えないほどの奇石怪岩群がみられます。

県道のすぐ下に「水神さん」の祠かんばんあり早魃かんぱつの年には「雨乞い」の祭事行われたようです

